

# 「国語Ⅰ」をどのように教えるか

鉄車佳司（国語科）

## I はじめに

昭和57年度より改訂実施された教育課程は、はやくも二年目を迎え、全国各高校において、新課程を効果的に学習させるにはいかにしたらよいか、それぞれ研究のことに拝察される。我が校においても、新教育課程の改訂に当って苦勞を重ねてきた。ここで国語科として、57年度中試みた「国語Ⅰ」の課程の編成における問題を取り上げて、研究の問題提起としたい。

## II 国語としての教育課程編成上の問題点

### 1) 「国語Ⅰ」の標準単位数をどう考えるか

本校では、従来、国語科として、現代国語2単位、古典（古文2、漢文1）3単位の時間数を1学年から3学年まで同じように配分して来た。その中で巨視的国語学習を目指して今日に至ったのである。日常の言語生活の様式を出来るだけ学校の国語の学習においても取り入れようというものである。すなわち、日常の言語生活は一回過程の場合がほとんどで、一度読み、一度聞きの中で理解して行かなければならない、もちろん、一度の言語接触で、理解できれば学校でわざわざ国語の勉強をする必要はないことになるが、最終的にその段階に至ることを目標に、より多くの教材に接して行こうとするのである。今日の高校生は読書量が少いのであるが、その欠点を学校において補なうことによって語彙数を増すのである。

このような方針のもとでは、国語Ⅰの標準単位4は、いかにも少ない。少なくとも、従来どおり5単位は必要である。という主張を教育課程委員会でし続けて来た。

その結果、昭和57年度に5単位、昭和58年度からの最終決定の教育課程では、6単位の実施を見ることになった。

### 2) 「国語Ⅰ」の担当をどのようにしたらよいか

今次改訂では、国語Ⅰの総合国語化が大きな目標であるが、我々教師の頭には、これまでの現代国語、古典分離の方式が根強く残っていて、特に古典の学習が、総合化によって弱まるのではないかという危惧がある。国語Ⅰの教科書見本を見ても、特に総合的に取り扱うよう教材は配列されておらず、これが大きな隘路となっている。さらに、国語Ⅰの総合化の意図に立てば、現代文も古文も漢文も有機的に働き合いながら錯綜した状態で授業を進めることに勢いなるであろう。そのためには、国語Ⅰは一人の教師が5単位全部を担当しなければ、有機的に作用し合わないことになる。そこで、本校では一つの試みとして、現代文および古文を一人の教師が担当し、漢文は、現代文と総合的に学習することは、かなり困難と考えられることから分離して別の教師が担当することとして出発した。しかし、反面一人の教師が1週4時間、顔をまさにつき合わせることは、言語の多様性を考えてみた場合、性格の異なる、言葉使いの異なる

る教師に触れる事で言葉を磨くという学習はできないという反省もあり、昭和58年度は、現代文一人、2単位、古文一人3単位、漢文一人1単位の担当で、国語Ⅰを学習することとして出発した。

昭和57年度方式 現代文・古文一人担当、漢文一人担当

昭和58年度方式 現代文一人担当、古文一人担当、漢文一人担当

この二つの方式を体験しているのは、本校の現二年生が唯一の存在ではないかと思われる。従って、二年生を対象にアンケートしてみた。別表参照

この二年にわたる、二つの方式を実験的に試みた結果は、どのようになるか、今後の課題であり、研究調査しなければならない。

現代文・古典の有機的総合化をねらった、昭和57年度の年間授業実施表は、別表のとおりであり、指導力のないためか、やや困乱した結果に終わったが、結果としての感想は、古文の基礎読解力がなければ、総合化を自由に駆使できないということである。確かに、現代文を理解するために、古文を参照し、あるいは逆に、古文を理解するために、現代文を引用するという読解の仕方は、楽しくかつ理解を深めるのに効果的なのではあるが、一年生の一学期では到底無理と言わなければならない。一部の比較的学力の高い生徒にとっては、興味あるものとなったようであるが、多くの生徒は、現代文と古文を引き離し、試験対策のためやすいようになることを望んでいるようである。

### 3) 「国語Ⅰ」の教材内容・量ははたして十分か

今改訂の眼目の一つである「ゆとりの教育」とは、何か。十分納得のゆく説明をしているものは、全くないといってよい。「ゆとり」は、各生徒一人一人によって个性的に異なるものである。学校が、真の意味の「ゆとりある教育」をなすためには、教育の機構そのものの改善を必要とするのではないかと考えられる。しかし現実には在来の生徒定員、教員定数、ゆとりのない教室数で対応しなければならない。そして指導要領において、「ゆとりある教育」を旨として、教材の精選がなされた。結果は、能力ある生徒にとって、教科書のみ教材では不足なのではないかと思われる。もちろん、学校の実態に応じて、生徒の適性に応じてカリキュラムを組み、教材を補足し、その適性と能力に見合った学習をさせることは許されるとしてもである。

今日、小・中・高・大生いずれをとっても、読書量の減少が著しいと叫ばれて久しい。学校で強制的に活字に触れさせられているといった傾向と言ってもよい。自主的に書物に触れることができるよう興味を喚起する国語教育が最も望まれるところであるが、実際には最もむずかしい問題である。例えば、小説のおもしろさは、全編を通して読んでこそ生れるものであり、評論・随筆にしても、作者の生活感情を抜きにしては興味も半減してしまう。そこを補うのが教師の役割であるが、そういった教材の盛り込みが必要なのではないか。古典の学習も一編二編の「徒然草」では理解できない。より多くの教材に触れ、まさに徐々に力を付けて、言語生活を豊かにして行くものである。人は、就職し、必要にせまられて義務的に漢字を覚え、本を読んだりするように必要にせまられてはじめて学習するものようである。こんなことを書けば教育の放棄と言われるであろう。しかしこれも教育の一つである。教材をより豊富にぎりぎりとおよそ「ゆとり」と正反対の、耐える教育こそが今日必要なのではないか。

本校では、1)の項で少し触れたごとく、教科書教材だけでなく、プリント、副読本を自由に使用して、文章に接する機会をより多くもつよう努力している。かつて中高年層の人は全ルビ付き本によって言葉を憶えたではありませんか。

参考 石川県高等学校教育研究会 国語部会 アンケート「国語Ⅰ」を指導して、  
2. 使用教科書について

(1)現代文教材 (2)古文教材 (3)漢文教材のそれぞれにおいて

		普通			実業			定時制			特殊		
		(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)
内容	易しい	2	2	1	4	2	0	0	1	1	0	0	0
	適当	33	32	31	9	11	12	6	7	4	2	2	2
	難しい	3	4	6	3	3	4	1	1	2	0	0	0
量	少ない	2	4	4	1	0	1	1	2	1	0	0	0
	適当	29	29	29	9	10	8	5	6	5	2	2	2
	多い	7	5	5	6	6	7	1	1	1	0	0	0
全体	物足りない	4	4	3	5	3	2	2	3	2	0	0	0
	適当	32	33	31	8	12	11	5	5	5	2	2	2
	評価できる	1	0	2	2	0	2	0	1	0	0	0	0

上記表を見て、もっと思い切った多様な教科書を作って欲しいと考えるのは無理か。

#### 4) 国語科の選択科目をどのようにするか

国語は基礎科目としてきわめて重要な科目である。しかも人格形成の上で読書の習慣は欠くべからざる必須事項であるとの認識のもとに、文・理のコースの別なく同様に履修させることを基本的原則とした。しかし、文学史や高度の古典は理系の生徒にとってあまり重要ではないとの考え方から3年の理系での古典履修単位を減じた。

1、2年では全生徒全く同じ内容、3年においても、文系古典増2単位を除いて、同じ内容の学習をする。

国記Ⅰ、国語Ⅱ、国語表現、現代文、古典を全て網羅し、幅広い人格形成をねらった。

#### Ⅲ 「国語Ⅰ」の指導を効果的にするにはどのようにするか

##### 1) 総合化をどのように実践するか

Ⅱの2)「国語Ⅰの担当をどのようにしたらよいか」の項で触れたように、現代文と古文を分離して学習する場合、この総合化はできないとまでは言えないが、かなり困難になるのではないか。そして、昭和57年度一年間「国語Ⅰ」を実践した結果について石川県内の高等学校のアンケート結果(次表)を見ても暗中模索の状態、改訂前の「現代国語」「古典」となんなら変わらないと考えている高校がかなりあると考えられる。これは全国でも同様であろうと推測される。

(3)㉞授業担当教師数と教授方法は以下のようであり、㉟この方法は良いかどうか。

	普通		実業		定時制		特殊		●参考 58年度普通科 13 2 2 17 1 3 変更校数11
	良	不良	良	不良	良	不良	良	不良	
1人担当で単元割り	11	11	13	0	6	1	1	0	13
1人担当で教材割り	1	0	1	1	0	0	0	0	2
2人担当で現代文古文と漢文	1	0	0	0	0	0	0	0	2
2人担当で現代文と古文漢文	11	0	0	0	0	0	0	0	17
3人担当	0	0	1	0	0	0	0	0	1
その他	2	0	1	0	2	0	1	0	3

⑦どのような方法が良いと思われませんか。

- 現代文古典別の教材割り
- 2人で現代文と古典
- 2人で現代文古文と漢文
- 現古漢をそれぞれ分担する
- 適当な方法が見つからない

まさに、現段階では、困迷のまま、見切り発車の状態とってよい。

本校におけるアンケートによれば、現代文と古文を関連させて読むことについて、良いと答えたものは、138名中80名以上で約3分の2であった。使用教科書、教育出版の「国語Ⅰ」は、幸い、「古典と現代」という単元を組んでおり現

代文と古文を合せ読む、即ち総合化をねらった編集が特色となっていて好印象のもてる教科書であったと考える。年間授業実施状況の表を参照しただけでは解りにくいですが、現代文と古文とを錯綜させながら読解して行く事は、教師にとって楽しいものであった。ただやはり欠点もあり、アンケートを見ても分るとおり、生徒自身は、現代文と古文を総合的に読み合わせて行くことに興味をもちながらも、一人の教師の担当をきらう結果となっている。

さらに、「国語Ⅰ」の総合的学習を目標とする時は、現発行の教科書のみにも頼るのでは、到底その目標を叶えることはできない。教師自身、教科書の教材を研究し、いかにその周辺部を埋める補助教材を発見構成するかが課題となる。

## 2) 「表現」の指導をどうするか

表現指導は、実におざなりになったとってよい。

1. 教科書教材の名文と思われる部分をノートに写させること
2. 文章の構成 「形」「山猫」
3. 観察文 「方丈記」大火
4. 文章を書かせる

といったありきたりの指導に終り、文章の添削は、なかなか実行出来なかった。

以上、「国語Ⅰ」の問題点のいくつかを提示し、皆様の助言をいただきたいと考えます。

	使用教科書	補助教材
1年	国語Ⅰ 教育出版	徒然草 岩波文庫 無常ということ 角川文庫 新編文語文法 中央図書 プリント 方丈記 大系本 平家物語 〃 竹取物語 〃 考証・日本橋蠣殻町 国文学 鳥と名前 唐木順三 万葉集 堤中納言物語 大系本 漢文読本 大修館

◇印教科書教材 ※印補助教材

学年・学期	現 代 文 ・ 古 文 時数	漢 文 時数
1年 1学期 4月	<p>1 読書と言葉</p> <p>◇ &lt;対談&gt;本との出合 井上 靖 2</p> <p>北 杜夫</p> <p>◇ 言葉の里帰り 唐木順三 2</p> <p>書き取り5分間テスト</p> <p>◇ 世界の中の日本語 日本語の特色① 1</p> <p>※ (古典への導入として働かせる)</p> <p>※ プリント補充「鳥と名と」唐木順三 2</p> <p>2 詩</p> <p>◇ 鉄 棒 村野四郎</p> <p>◇ 富 士 山 草野心平 1</p> <p>◇ これから 吉原幸子</p> <p>◇ 寂しき春 室生犀星 1</p> <p>◇ いろは歌 日本語の特色</p> <p>◇ 五十音図</p> <p>古典文法の導入を図る 1</p> <p>3 物語と故事</p> <p>◇ 宇治拾遺物語</p> <p>ちごの、かい餅するにそら寝 したること</p> <p>※ 古典文法 「新編文語文法」を参照</p> <p>文節に切る</p> <p>単語に分ける</p> <p>動詞を抜き出す 1</p> <p>動詞活用の種類</p> <p>口語動詞活用とのちがい 3</p> <p>竹取物語</p> <p>(-)かぐや姫の誕生</p> <p>※ 古典文法</p> <p>文節に区切る</p> <p>単語に分ける</p>	<p>漢文入門 3</p> <p>1 漢文の基本的構造と送り 仮名・返り点</p> <p>2 訓読上、特に注意すべき 文字</p> <p>練習短文</p> <p>杞憂、五十歩百歩 矛盾</p> <p>推敲 載長竿 畏饅頭</p> <p>副読本〔漢文読本〕に移行 入門篇を復習</p>
5月		3

学年 学期	現 代 文 ・ 古 文	時数	漢 文	時数
6 月	動詞を抜き出し、活用の種類 を見分ける	1		
	抜き出した動詞を活用させる	1		
	◇ (二)かぐや姫の成長			
	※ 古典文法 動詞を抜き出し、活用の種類 を見分ける (活用させるのは家庭学習)	1		
	◇ (三)天人の迎え			
	※ 古典文法 動詞を抜き出し、活用の種類 を見分ける	1		
	◇ (四)翁との別れ	1		
	※ 古典文法 補助動詞 敬語	1		
	◇ (一)(二)(三)(四)を再度読み返し、助動 詞を解釈文法として学習 仮定条件、確定条件「……ば」	2		
	※ プリント補充 「御門の求婚」物語としての内容 を重点として	2	3 格言 14 例	4
	4 小 説 (一)			
	◇ 山 椒 魚 井伏鱒二	3	4 故 事	
	◇ たわむれ チェーホフ 書き取り 5 分間テスト	3	守株 漁夫之利 五十歩百歩 朝三暮四 塞翁馬 借虎威	
	◇ 羅 生 門 芥川龍之介	4		
※ 方丈記の書写と読解  書き取り 5 分間テスト	3			

学年 学期	現 代 文 ・ 古 文	時数	漢 文	時数
7月	※ 原典「今昔物語」をノートに 書写する。(家庭学習) その読解 ◇ 文章を書く ◇ 形 菊池 寛 ※ 読后感想文800字	1  2 1	◇試験問題の出し方説明	1
2学期 9月	5 随想と評論 ◇ なまいき 朝永振一郎 ◇ 親友とライバル 河盛好藏 書き取り5分間テスト ◇ 経験について 森 有正 ※ プリント補充「経験」の補足特に 「二項方式」の考え方 書き取り5分間テスト 6 物語と漢詩 ◇ 平家物語 祇園精舎 ※ 平家物語 小林秀雄 ※ 生ずきの沙汰 プリント ※ 宇治川の先陣 プリント 小林の文章を理解するために総 合的に扱う ◇ 忠度の都落ち 書き取り5分間テスト	3 3  4 2    1  8 1	5 絶句と律詩 ◇漢詩について ◇鹿柴 ◇静夜思 ◇敲胡隠君 ◇京師得家書 ◇磧中作 ◇秋思 ◇江南春 ◇春夜 ◇春望 ◇村月憶元九	4
10月	◇ 平家物語 祇園精舎 ※ 平家物語 小林秀雄 ※ 生ずきの沙汰 プリント ※ 宇治川の先陣 プリント 小林の文章を理解するために総 合的に扱う ◇ 忠度の都落ち 書き取り5分間テスト	1  8 1	上記のつづき	3
11月	7 小説 (二) ◇ 春の日のかけり 島尾敏雄 ◇ 高瀬舟 森 鷗外 書き取り5分間テスト ※ 作文「安楽死について」800字 8 和歌	4 4	6 史伝(十八史略) ◇鼓腹撃壤	4

学年 学期	現 代 文 ・ 古 文 時数	漢 文 時数
12月	◇ 万葉集 ◇ 古今和歌集 ◇ 新古今和歌集	◇ 鶏口牛後 ◇ 何前倨而後恭也 ◇ 先從隗始 ◇ 燕雀安知鴻鵠之志哉
	随想を書く ◇ 山猫 中野重治 文章の構成を中心として	◇ 多多益辨 ◇ 路不拾遺 ◇ 割肉以充腹 ◇ 創業守成
	9 随筆と思想 ◇ 方丈記 ゆく川の流れ	
	※ 修辭法 ※ (プリント) 方丈記 大火、大風、飢饉、方丈の庵 解釈文法	1 3
	※ 徒然草 小林秀雄 ※ 徒然草 書き取り5分間テスト 序段 つれづれなるままに 75段 つれづれわぶる人は 60段 真乗院に盛親僧都とて 211段 万の事はたのむべからず 229段 よき細工は 22段 何事も、古き世のみぞ	7
	93段 牛を売る者あり よみ易い名文 40段 因幡の国に 47段 或人、清水へ参りけるに 50段 応長の比、伊勢の国より 51段 亀山殿の御池に 52段 仁和寺にある法師 53段 これも仁和寺の法師 54段 御室に、いみじき児の 87段 下部に酒飲まする事は 88段 或者、小野道風の書 89段 奥山に、猫まとと 92段 或人、弓射る事を習 季節感を味わう風雅の心 137段 花はさかりに 19段 折節の移りかはるこそ 31段 雪のおもしろう降り	史伝のつづき 2



学年 学期	現 代 文 ・ 古 文	時数	漢 文	時数
	32段 九月二十日の比 43段 春の暮つかた 44段 あやしの竹の編戸 無常の 25段 飛鳥川の淵瀬 世界 30段 人のなきあとばかり 7段 あだし野の露 188段 或者、子を法師になし	8		
3 学期	11 古典と現代		7 先哲のことば	3
1 月	◇ 徒然草の世界 山崎正和 ※ 方丈記 福原遷都プリント ※ 徒然草 80段 人ごとに、我が身に 226段 御鳥羽院の御時 79段 何事も入りたたぬさま 185段 城陸奥守泰盛は 186段 吉田と申す馬乗の 134段 高倉院の法華堂の 150段 能をつかんとする人 151段 或人の云はく、年五十 136段 医師篤成、故法皇の 168段 年老いたる人の、一車	8	論語について  論語より6章 孟子より7章	
2 月	◇ 貝合わせ 福永武彦 ※ 堤中納言物語「貝合はせ」 (プリント)	7	上記のつづき	3
3 月	◇ 陰翳礼讃 谷崎潤一郎 ※ 徒然草 191段 夜に入りて物の映えなし ※ 考証・日本橋蠣殻町 一少年潤一郎の空間 (プリント 国文学 磯田光一) 書き取り5分間テスト	5  2		
	※ 徒然草整理 73段 世に語り伝ふる事 74段 蟻のごとく集りて 79段 何事も入り立たぬ様	2		

	◇現代文・◇国語表現	古 文	漢 文
1 学期	1 言葉と思想 黒井千次 ◇任意の一点 2 ○表現の特徴 ◇小さな出来事 寺田寅彦 3 ○観察とその表現 1 作文 家庭学習 2 詩 4 編 ◇落葉、竹 乳母車 千曲川旅情の歌 3 ※プリント「病跡学的に 見た萩原朔太郎」－ (国文学) 2 4 小説 (一) ◇山月記 中島 敦 3 ※ 人虎伝 ◇富嶽百景 大宰 治 4 ※東京八景 プリント 1 感想文800字 1	枕草子 5 春はあけぼの 有りがたきもの 九月ばかり 五月ばかりなどに山里 にありく 雪のいと高う降りたる を 更級日記 5 門出 源氏の五十余巻 歌論 2 古今集序 無名抄 名歌選 3 定家、家隆、西行、 奥の細道 プリント 5 旅立ち～金沢	古体詩 3 凱風 行行重 行行 勅勒歌 飲酒 子夜呉 歌 石壕史 近体歌 3 春暁 山亭夏 日 山行など 17編 中国の文章 4 桃花源記 雑説 春夜宴桃李園序 深耕説 (外にNHK市 民大学講座史記 の世界を各自視 聴学習)
2 学期	5 随想と評論 ◇生きるじたばた 2 芝木のりこ ◇「的」の文化 鈴木修治 4 ◇この意味喪失の時代 に生きる 大塚久雄 4 ○評論文の書き方 2 ○作文 2 7 小説 (二) ◇沈黙 遠藤周作 5 ◇こころ 5 ※沈黙全文を読む 4	伊勢物語 5 初冠、あずま下り、 惟喬の親子 大和物語 プリント 4 宇津保物語 プリント 4 落窪物語 プリント 4 源氏物語 11 桐壺 夕顔 プリント 螢 プリント	史記と司馬遷 16 鴻門の会 四面楚歌 項王の最後 (教科書教材以 外に史記項羽本 紀を全巻読む) (以下プリント)
3 学期	◇歌を作る覚悟 1 ○説明文 1 10 近代の出發 ◇青春 中村真一郎 4 ◇明治女性史 村上信彦 3 ◇国語文体の確立 山本正秀 3	大鏡 プリント 8 栄花物語 プリント 4	古文真宝よう 6 帰去来辞 赤壁賦(前後) 師説 蘭亭記 五柳先生傳など